

# 社会貢献型インターンシップ 第12回「クラダシチャレンジ」in 神奈川県横浜市



# Agenda

#01

社会貢献型インターンシップ  
「クラダシチャレンジ」とは

#02

スケジュール

#03

活動内容

#04

参加者の声

#05

中間報告会

#06

総括



# #1. 社会貢献型インターンシップ 「クラダシチャレンジ」とは

## #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

### 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地方創生やフードロス問題に興味がある学生が、人手不足に悩む地方農家での農業支援を通し、地域課題やフードロスなどの社会課題について考える、社会貢献型インターンシップです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

### クラダシチャレンジ実施の目的

活動中：未収穫品から新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後：学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。



# #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

“もったいない”を価値へ



## クラダシ基金： 地方創生

人手不足で収穫できない農家に学生をインターンシップとして送ることで、一次産品の未収穫廃棄物をレスキュー。収穫できた農作物をKURADASHIで販売し、支援金が増えることで人手不足による未収穫によるロスをもさらに減らすことができるエコシステム。  
クラダシチャレンジは、鹿児島県の種子島と与輪島、香川県の小豆島と高知県北川村、鹿児島県の西之表市、北海道の仁木町にて計8回実施。

### 得られるメリット

- 地方労働力の提供  
クラダシチャレンジ（インターン）  
により学生派遣
- 学生の食育や  
フードロスの削減  
フードロス削減に意識の高い学生の  
食育・体験
- 収穫商品の再流通  
学生の収穫した商品をKURADASHIで  
流通（農家の収益増加）



## クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために創設した基金で、社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」上における寄付先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、食育・SDGs教育事業などに活用しています。

### ▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>



# #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは 「クラダシチャレンジ」による農家・自治体への効果

## ①地産地消の推進

横浜市は、都市と農業が共存する「**“農”のあるまち横浜**」を目指し、「横浜都市農業推進プラン」を策定しています。横浜市の農業、農産物の魅力を発信することで、人々に地産地消について考えていただく機会を提供します。



## ②生産から消費までの流れに関わることで、学生に学ぶ機会を提供する

食べ物が食卓に届くまでの過程、都市農業が抱える課題について知ることで、自分たちに密接にかかわる「食」に対して、**何ができるのか** 考えていただきます。

## ③横浜市内にも畑があること、横浜市の農業についてより多くの方に知っていただく

東京23区を除く全国の市区町村で最大の人口を誇る横浜市にも多くの畑があること、都市の農業は市民の食生活を支えるだけでなく、**多くの業種と結び付いて地域経済にも貢献している**ことを知っていただくことで、農業をより身近に感じてもらうことを目指します。



## 社会貢献型インターンシップ 第12回「クラダシチャレンジ」in 神奈川県横浜市

- 活動内容：
  - ①苗・種植え、栽培、収穫、梱包、販売
  - ②イベントのお手伝い
  - ③SNS等を利用した魅力発信
- 開催期間：2022年2月~9月
- 参加人数：13人
- お世話になっている農家さん：3名（矢野さん、土井さん、藤又さん）



# #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

## 神奈川県横浜市クラダシチャレンジの概要

“もったいない”を価値へ



株式会社クラダシと横浜市資源循環局は、社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」を活用して横浜市内の食品ロス削減とフードバンク活動支援に取り組むため、公民連携の覚書を締結しました。

今後は双方が協力し、「KURADASHI」の仕組みを活用して市内食品メーカー等の食品ロスを削減するとともに、消費者が購入した代金の一部を市内で活動するフードバンク団体に寄附し、活動を支援するために取り組んでいます。

▼連携協定について詳しくはこちら

<https://corp.kuradashi.jp/news/20-02-07/>

#クラダシチャレンジ in 横浜市



## 横浜クラチャレの特徴

### ①長期開催である

これまでのクラダシチャレンジは1週間程度と短期での開催であったのに対して、横浜市で開催しているクラダシチャレンジは8か月(活動は隔週土曜日)と長期で行っています。

### ②都市農業や地産地消に注目

都市での開催ということで、短期のクラチャレの目的である、地方の人手不足や高齢化が問題になっている農家さんの作業支援ではなく、都市農業や地産地消に目を向け、そこでのフードロス削減を目的としています。



## #2. 活動スケジュール

### <矢野さん>

- 10:00 前回の振り返り・  
今回の作業に関する説明
- 10:30 枝おろし・光合成について
- 11:30 小休憩
- 11:40 枝おろし・薪づくりの作業
- 12:10 昼食・日本の農業の現状について
- 13:10 枝おろし・薪づくり・  
ブルーベリーの苗の植樹
- 15:00 片づけ・本日の振り返り
- 16:00 解散

### <土井さん>

- 10:00 ヤーコンの種掘り
- 11:30 植え替え
- 12:30 昼食
- 13:30 畑をならす、バジルの種まき
- 14:00 竹藪の整備
- 15:00 座談会
- 16:00 解散

### <藤又さん>

- 10:00 今日の作業の説明
- 10:15 なすの残骸の処理
- 11:30 昼食
- 12:00 ブロッコリーの種植え
- 13:00 畑を移動してジャガイモの収穫
- 15:00 ニンジンの袋詰め作業
- 16:00 解散



## #3. 活動報告

## ▶矢野さんの畑での活動

矢野さんは、「自然菜園あかね空」という観光農園を運営している方で、さまざまな作物を栽培 & 養蜂もやっています！  
観光農園こそ、都市農業ならではのものだと思います。

↓果樹の苗植え



↑マルシェでの販売

今回野菜の販売を行い、普段何気なく見ている野菜は多くの苦勞があって店頭に並んでいることや、流通までの過程を自分の目で見て、改めて野菜のありがたみを感じました。マルシェに来てくださった方の食や商品に対する意識の高さを強く感じました。一軒一軒を回り、商品についての知識・背景を聞き、楽しみながら買い物している姿が印象的でした。

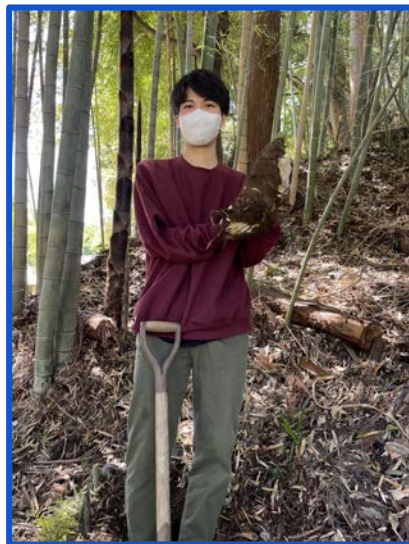


↑オクラの植え



## ▶土井さんの畑での活動

土井さんは自然農法という農法をおこなっていらっしゃいます。自然農法とは、本来の生態系を生かして栽培を行うため、手間や肥料などが少なく、金銭的にも環境的にも負荷が少なく、持続的な農業です。そのため他の農家さんと違い、畑での作業は少なく、主に山の整備やたけのこの収穫等を行っています。



↑たけのこ収穫の様子



土井さんの畑での印象的なエピソードとして、半年前に植えたヤーコンがまだ食べられたということがあります。つまりこのヤーコンは、収穫時期を過ぎ、冬を超えても腐っていないということになります。土井さんが行う自然農法は、自然本来のサイクルに任せて栽培しています。自然農法はメジャーではないし、中には避けたがる人もいます。しかし、掘り起こさなければ来年の養分になるし、土を耕す必要もない。ロスが出ないという環境面だけでなく、経営的にも優れているのです。



## ▶藤又さんの畑での活動

藤又さんは生産から消費まで地域内で完結する地産地消の農業を行っていらっしゃいます。  
作業内容としては、苗植えから収穫までの作業、また梱包や草むしりなど幅広く行っています。



↑梱包作業の様子



↑学生が一部作業に関わった蒟蒻芋で作られた蒟蒻

他の2農家さんと違い、藤又さんは農薬を使う農家さんです。  
農薬というと体に良くないといったイメージもありますが、法律で決められた厳しい審査をクリアした農薬を使用法や容量を守って正しく使用すると、安全な野菜を、効率よく、安定した量収穫することができますと学びました。



## ▶意見交換会

3月29日に、横浜市役所にて横浜市役所 3R推進課や農業振興課職員の方々、農家の方々、クラチャレに参加している学生で意見交換を行いました。

生産者や消費者でも気付かない新しい視点や問題点に触れることができたことは非常に良い経験となりました。意見交換会に参加したことで、自分が感じていたフードロスの注目点が比較的表面的であり、広く捉えることで見えてくる根本問題に気付くことができる、という発見がありました。

他の地域や市町村がまだ取り組んでいないようなことを率先して行い、トライ&エラーで実現に繋げていくというユニークなこのスタイルは、横浜市の大きな特徴だと思いました。

横浜市のフードロスや都市農業、地産地消の現状を知ることが出来ました。生産者や消費者とは違った視点でこれらに取り組んでいる行政の方々は、自治体ならではの問題意識がありました。コロナ禍によって対面での啓発活動を推進することが難しくなったことなど、社会情勢にも左右される様々な問題点を共有していただけたことが非常に興味深かったです。



## #4. 参加者の声



## #4. 参加者の声 ①

### 体験することで変わった農業への意識

この活動を通じて、①実際に農業を体験することの大切さ、②世界と日本の農業に対する考え方の違い、③意識が変われば行動が変わること、の3点が自分の中での大きな学びとなりました。

農業は自分が想像する以上に足腰を使う作業が多いこと、ほとんどの農家さんは全て一人で作業されていること、さらに、汗水垂らし生産した野菜は100円や200円と比較的低価格で販売されていることが問題だと伺い、価格と労力が釣り合っていないことを肌身で感じました。また、世界と日本の農業に対する考え方の違いも印象的でした。日本では農業は一つの産業として考えがちですが、安全保障に直結する分野であることを学びました。「意識が変われば行動が変わる。」これが1番心に残った言葉です。日本の社会では意識高い「系」は何かと揶揄されがちです。しかし様々な問題に無関心なことは、勿体無いことであり、意識が変われば自然と情報が入ってくることも併せて学びました。



## #4. 参加者の声 ②

## 日々の積み重ねが大きな社会貢献に

私は、大学で学んだ食品ロスについての知識と、実際の現場で発生する食品ロスに関する問題や対策を比較したいと思い、クラチャレへの参加を決めました。今回の活動で訪れた農家さんの方々から、食品ロス削減の取り組みを教えていただいたことがとても印象に残っています。本来は市場で取引される野菜には基準があり、その基準を満たしていないものは規格外とされ、多くの食品が捨てられています。しかし、あえて大きさが違う規格外の野菜だけを箱に詰めて、箱の重さをそれぞれ平等にして販売したり、自分の所有している直売所で安く販売するなど、農家の方々が行なっているロスの削減方法についてお話を聞くことができました。農家の方々も深刻な食品ロス問題の解決に取り組んでいることを知り、消費者である我々も意識するべきであると考えました。それぞれが自分の身の回りにある食べ物を無駄にしないようにすれば、大きな社会貢献になると思います。

#クラダシチャレンジ in 横浜市



【関東学院大学4年 犬童一裕】

## #4. 参加者の声 ③

### 体験しないと気づかないこと

これまでの活動を通して得た気づきは、自分の身をもって経験することが何よりも大切だということです。もちろん本やネットを通して知識を得ることも重要だと思いますが、実体験を通して学ぶことで、対象を「自分事」として捉え、自分なりの考えを持つことができるようになると思います。これまで農業とほとんど関わりなく生きてきた自分にとって、フードロスや低い食料自給率などの問題について考える機会は滅多にありませんでした。しかし、クラダシに参加して実際に農業をする中で、野菜を作ることの難しさやロスが生まれてしまう状況を身をもって経験することで、フードロスや地産地消などを「自分事」として捉えることができるようになりました。一人一人の影響力は小さくとも、こうした生の体験を通して皆の意識が変わっていけば、フードロス削減などに良い影響を及ぼすのではないかと考えます。今後の活動でも主体的に取り組み、学んでいきたいです。



【横浜国立大学2年 鈴木大智】



## #5. 中間報告会

### 第13回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 京都府京丹後市の中間報告会と合同で、参加者による中間報告会を行いました。

■日時：2022年6月1日 18:00-20:00

■場所：クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者：「クラダシチャレンジ in 京都府京丹後市」参加学生  
「クラダシチャレンジ in 神奈川県横浜市」参加学生  
京丹後市役所職員の方々  
横浜市役所職員の方々  
横浜市農家さん  
クラダシ社員



## 都市農業×フードロス

農家さんではフードロスは発生していない！

→・売れ残った野菜は次の時期の肥料にする(矢野さん)

・注文を受けてから収穫する(土井さん)

・形が悪いものは直売所で売る(藤又さん)

上記を学んだうえで考えたこと

- ①農家さんの取り組みから、フードロス削減方法を学ぼう
- ②商慣習や消費行動から生まれるフードロスの方に注目すべきである
- ③地産地消や都市農業がフードロス削減のカギになる



## 今後の活動方針

⇒農家さんだけでなく、行政や流通過程に注目する

学び: ①横浜市だけでなく他の行政やクラダシ以外の企業の

取り組みを学び、新たな提案をする

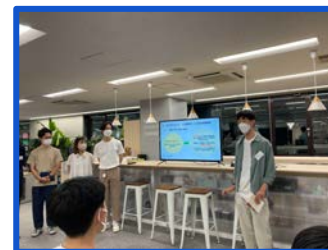
②農家さんの卸先の飲食店等に、フードロスへの取り組みを聞く

発信: ①SNSを使った発信(クラチャレ Instagram開設!)

②noteを使った発信(1回目の横浜クラチャレ note:

[https://note.com/kuradashi/n/n0ad40f03f0a0?magazine\\_key=m499ca858f398](https://note.com/kuradashi/n/n0ad40f03f0a0?magazine_key=m499ca858f398))

共有: マルシェの開催(対面でコミュニケーションをとることで、消費者に問題意識を持ってもらう)



## #6. 総括



社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長 関藤 竜也

事業内容

社会貢献型ショッピングサイト「KURADHASHI」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、横浜市以外の自治体でも支援を引き続き行なって参ります。

ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。